



学校法人

聖マリアンナ医科大学

3H clinical trial

報道関係各位

2021年10月11日

学校法人聖マリアンナ医科大学

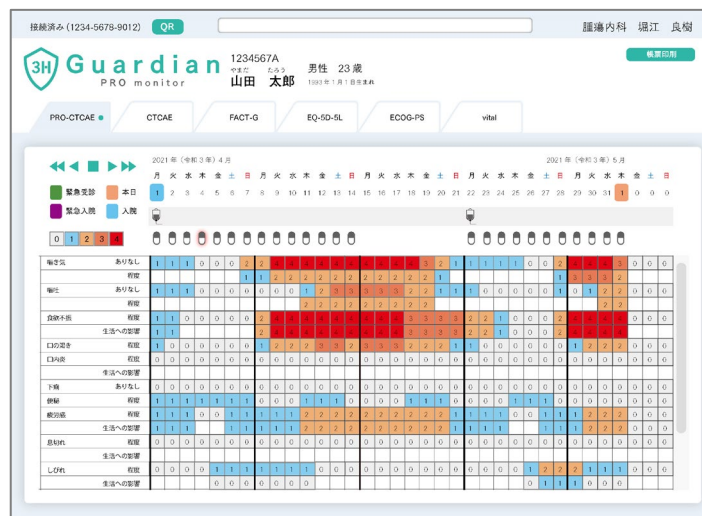
3H クリニカルトライアル株式会社

**ePRO(電子患者報告アウトカム)と電子カルテ(EMR)をシステム連携。
 がん患者のアプリ上の入力データを電子カルテから確認可能に。
 医療現場に即した ICT 活用で医療の質を向上。**

学校法人聖マリアンナ医科大学（神奈川県川崎市、理事長：明石 勝也、以下聖マリアンナ医科大学）と 3H クリニカルトライアル株式会社（東京都豊島区、代表取締役：滝澤 宏隆、以下 3H）は、ePRO(電子患者報告アウトカム)※と電子カルテ(EMR)※をシステム連携、患者さんの日常の健康情報と治療の内容を合わせて的確に確認できるダッシュボードを作成し、聖マリアンナ医科大学病院腫瘍内科にて運用を開始いたしました。

これにより、がん患者さんが日常に感じている自覚症状と服薬などの治療情報を診察時に確認し、より適切な治療を検討することが期待できます。

< ePRO と電子カルテを統合したダッシュボード画面（意願 2021-7805） >



嘔き気	ありなし	1	1	1	0	0	0	2	2	4	4	4
	程度							1	1	2	2	2
嘔吐	ありなし	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	程度											2
食欲不振	程度	1	1	0	0	0	0	0	2	4	4	4
	生活への影響	1	1						2	4	4	4
口の渇き	程度	1	0	0	0	0	0	0	1	2	2	2
口内炎	程度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生活への影響											
下痢	ありなし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ePRO から取得したデータ

2021年4月2日(火)		
レジメン①	CapeOX+Bv【大腸】	
レジメン②		
腫) アバスチン点滴静注	300mg	100%
毒) 腫) 井ガブ ラチ点滴静注	130mg	83%
アロキシ静注	0.75mg	
デカドロン注射液	9.9mg	
ゼローダ	300mg 4T × 2	朝夕 (2400mg / 日)

電子カルテから取得したデータ

※ポップアップ表示

※画面は開発中のものです



学校法人

聖マリアンナ医科大学

3H clinical trial

限られた問診時間で患者さんが日常生活における自覚症状を伝えることは簡単ではなく、医師がその情報を正確に把握することも容易ではありません。しかし ePRO を活用することで、患者さんが日常に感じていた症状をエビデンスに基づいた指標なども活用して把握することが可能になります。

近年、海外では、ePRO などを活用して取得した、がん患者さんの健康情報(PHR：パーソナルヘルスケアレコード)を活用することで生活の質(QOL)の向上や生存期間が延長するなどの研究結果も発表されており、注目を集めています。

しかし一方で、ePRO を導入するには、病院で使用されている電子カルテシステムなどとの連携が課題となっていました。例えば問診時に ePRO に入力された情報と電子カルテにある治療情報などを別々のシステムで確認するといった非効率な運用となっていました。

こうした課題に対し、3Hが提供する ePRO「3H-P Guardian」を聖マリアンナ医科大学の電子カルテと連携し、一つの画面で診療に必要となる ePRO と電子カルテのデータを確認することを可能にしました。

これにより、限られた問診の時間内でも、患者さんが ePRO に入力した日々の自覚症状と服薬などの治療状況を的確に素早く確認することが可能となり、適切な治療方針の検討をサポートします。

※ ePRO(電子患者報告アウトカム)：患者から直接得られる患者の状態情報(PRO)を電子的に収集する仕組み。

※ 電子カルテ(EMR)：医師が記録する診療の経過(診療録)を電子情報として保存・管理するシステム。

■聖マリアンナ医科大学腫瘍内科 堀江 良樹のコメント

近年、経口抗がん剤などの開発により、多くの抗がん剤治療が通院で行われるようになりました。その結果、患者さんは普段通りの仕事や生活を続けながら治療に取り組めるようになりました。一方で、治療期間の多くを自宅で過ごすため、医療従事者に症状の辛さや困りごとを正しく伝えるハードルは高くなっているかもしれません。最近、患者さんの主観的な副作用が医療従事者に実際よりも過小評価されている可能性があることが報告されています。有効な治療薬の効果を最大限に引き出し、治療を安全により長く継続するためには、患者さんが経験している副作用を確実に医療従事者に伝える必要があります。本システムによって、患者さんの症状報告と医療従事者のコックピットでもある電子カルテが連携することによって、最適化された治療マネジメントが提供されることを期待しています。

■3H クリニカルトリアル株式会社 取締役副社長 可知 健太のコメント

「基盤となっている ePRO「3H P-Guardian」開発のきっかけは、がん患者さんの日常の有害事象などの健康情報を遠隔モニタリングすることにより、生存期間が延長したという海外での研究結果を見たことでした。今回、医療の ICT 活用に力を入れている聖マリアンナ医科大学病院と共同することで、開発当初に考えていた患者さんに貢献できる取り組みとして、電子カルテ連携を行うことができました。今後もこうした ICT 支援で、医療の質の向上に貢献していきたいと思えます。」



学校法人

聖マリアンナ医科大学

3H clinical trial

■3H P-Guardian について

患者、医師、統計家とともに企画・設計したフレキシブル ePRO。指標や質問項目を簡単に選択・作成できるカスタマイズ性を持たせることで、低コストでの導入が可能。ePRO 機能はもとより、メモや見守り、リマインド、チャットや掲示板など、様々な機能も実装しており、リリース 1 年で、治験、臨床試験、臨床研究、市販後調査など 35 以上のプロジェクトで広く活用されています。なお、今回のダッシュボード開発は 3H グループとハイパーキューブ社の合弁会社である株式会社 Four H の協力のもと実現しています。 <https://3h-ms.co.jp/pguardianlp>

【学校法人聖マリアンナ医科大学】

法人名：学校法人聖マリアンナ医科大学

所在地：神奈川県川崎市宮前区菅生 2 丁目 16 番 1 号

設立：1971 年 4 月 1 日 東洋医科大学開学（1973 年 4 月 1 日 聖マリアンナ医科大学に改称）

代表者：理事長 明石勝也

建学の精神：『キリスト教的人類愛に根ざした「生命の尊厳」を基調とする医師としての使命感を自覚し、人類社会に奉仕し得る人間の育成、ならびに専門的研究の成果を人類の福祉に活かしていく医師の養成』

コーポレートサイト： <https://www.marianna-u.ac.jp/>

【3H クリニカルトライアル株式会社】

3H クリニカルトライアルは、人(Human)の健康(Health)と幸せ(Happiness)をつなぐライフサイエンスグループである 3H グループにおいて、主にヘルスケアメディアの運営と 10 年以上の臨床試験・治験支援を行ってきたノウハウをベースに医療と最新のテクノロジーを融合した「ヘルステック」を活用したソリューションを提供しています。詳しくは、<https://3h-ct.co.jp/>をご覧ください。

<本件に関する問い合わせ>

3H ホールディングス株式会社 3H グループ広報担当・野村(のむら)

TEL：03-6868-3790 e-mail: pressroom@3h-holdings.co.jp